

SDGsって??

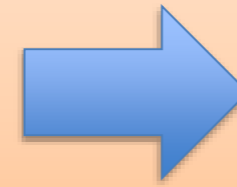
経済や社会、自然環境などのさまざまな問題に対して、2030年までに達成すべき17の目標のことで、「誰一人取り残さない」ことを掲げて、世界中の国や人たちが、地球を住みやすい場所にしようという取り組みです。15年に国際連合(国連)の加盟国が決めました。19年の国際サミットで、20年以降の10年は、目標達成に向けて皆で取り組む「行動の10年」と位置づけられました。

日本は何をするの??

日本政府は2016年にSDGs推進本部をつくり、あらゆる人々が活躍できる社会の実現や気候観測、生物多様性、科学技術の発展などの優先課題を決めました。20年以降は、取り組みを強化し、国内の公共交通機関のバリアフリー化を進めたり、開発途上国の医療や栄養状態の改善を模索したりしています。

<御西の取り組みを振り返ってみよう!>

- ・ICTを授業に導入
- ・献血活動、ボランティア活動
- ・被災地への募金活動
- ・カーディニア(海外)との交流活動
- ・エコ活動
- ・外部との連携(企業・大学)
- ・富士山の植樹、ゴミ拾い
- ・人権教育 等



なぜSDGs委員会をつくったの??

一番の理由は全校生徒を『誰一人取り残さないため』です。何もしないまま社会が動き続けると、地球温暖化の深刻化で自然環境や生物に大きな影響を及ぼしてしまいます。結果、我々人間にもその影響が広がり、貧困が著しく増加したり、豊かさを求めて紛争も起こるかもしれません。そのような暗い未来ではなく、明るい未来を今の生徒たちに歩んでほしいという思いから、このSDGs委員会を発足しました。

明るい未来のために、私たちができること

【目標1：貧困を無くそう 取り組み事例】

☆お寺の「おそなえ」を必要なところへ「おすそわけ」

食事にも満足に取れない子どもたち。どこか遠い国の話のように感じるかもしれないが、日本の子どもの7人に1人が貧困状態にある。一方で、お寺には「おそなえ」として食べ物などがたくさん寄せられる。それを仏さまからの「おさがり」として、困っている人に「おすそわけ」できないか。そう考えた奈良県・安養寺の住職、松島さんが立ち上げたのは、NPOのおてらおやつクラブだ。支援団体を通じて必要なところへ食べ物やお菓子を届ける活動を行っている。松島さんが心を痛めるのは、さまざまな事情で生活に困窮する家庭の中には周囲に相談できず、孤立する人たちがいること。「おすそわけ」を通じて、困っている人と支援団体を結び付けて孤立を解消する一助になればと考えている。そのために大事な

のは、お寺が「後方支援」に徹することだという。「直接支援」する人を後方から支えることで、直接支援することだけが、問題解決につながるわけじゃない。いろいろなやり方がある。全体の仕組みを考えてみることで、新しい支援の形が見えてくるかもしれない。

参照：未来を変える目標 SDGs アイデアブック



《SDGs委員会今後の予定》

各クラスの委員会生徒でチームを作っています。そのチームで担当月の月末にSDGs新聞を作成して、各クラスに配布しますので楽しみにしてください！それと同時に、作成した新聞の紹介と次回の担当者の紹介動画も配信予定です。ぜひご覧になってください😊

そして、日々SDGsを意識して全員の生活が明るく豊かになればいいですね。



学校法人東駿学園
御殿場西高等学校
GOTEMBA NISHI HIGH SCHOOL